

岡崎市社会資本整備総合交付金

「新世紀岡崎 浄化循環のみち下水道(重点計画)」事後評価 議事録

日 時：令和2年11月19日(木) ほか

場 所：オンライン会議にて開催

出席者：

(評価委員)

委員：豊橋技術科学大学教授 井上 隆信 氏

委員：名城大学教授 鈴木 温 氏

委員：名古屋市立大学准教授 三浦 哲司 氏

委員：日本政策投資銀行次長 加藤 秀行 氏

(事務局)

岡崎市総合政策部企画課係長 鈴木

岡崎市総合政策部企画課主事 増澤

岡崎市上下水道局上下水道部下水工事課係長 竹田

岡崎市上下水道局上下水道部下水工事課技師 久米

岡崎市上下水道局上下水道部下水工事課技術員 今井

(傍聴人)

なし

事務局	(「新世紀岡崎 浄化循環のみち下水道(重点計画)」の、指標、実績、指標達成状況、評価について説明。)
三浦委員	未整備地区の住民は合併処理浄化槽で汚水を処理しているのか。
事務局	合併処理浄化槽や単独処理浄化槽、汲み取り便槽で処理している。
加藤委員	岡崎市の下水道普及率 89.1%は他自治体と比べて高い方なのか。
事務局	全国平均が79.7%のため、高い方だと考える。
鈴木委員	全体事業費の実績値が計画値よりも下回った理由及び普及率の実績値が 0.3%も計画値より上回った理由は。
事務局	効率的な整備手法の採用や工事等の請負差金などにより、事業費を抑えることができたと考える。普及率について、整備した区域は計画通りであったが、令和元年度末の総人口が想定より増加しなかったことが理由の一つと考える。
井上委員	今後は整備率、普及率ともに100%を目指すのか。
事務局	汚水適正処理構想で各汚水処理手法の割合を定めている。下水道事業計画区域に含まれる市街化調整区域については令和7年度末までに整備率100%を目指す。普及率は総人口に対して下水道を利用できる人口で算出しているため、100%にはならない。
三浦委員	汚水整備の計画は今後の人口減少等を踏まえて決定しているのか。
事務局	平成 27 年度に汚水適正処理構想を見直した際、今後の人口減少等の社会情勢や採算性等を考慮した計画区域としている。
井上委員	汚水処理整備の担当部署との調整は出来ているのか。
事務局	汚水適正処理構想で各汚水処理手法の割合を定めており、整備の調整は出来ている。

## 【結果】

この事後評価案が妥当であることを判断する旨、委員一致で採決された。